



contents

[コラム]

闇に住む民は光を見たい
…高岡詠子 (上智大学)

[解説]

ご存知でしたか？
…笈 捷彦 (早稲田大学)

[解説]

高校教科「情報」のこれまでとこれから (前)
…久野 靖 (筑波大学)

Column

闇に住む民は光を見たい



学会誌の教育に関する記事への関心が最近高まっており、モニタアンケートなどを見てもそれが顕著である。会員でない方からも、その記事だけは閲覧したいという希望が多い。10月からスタートした「プログラミング、何をどう教えているか？」も好評だ。プログラミングや情報の教育は、もう何年も前から本当にたくさんの先生方がそれぞれの経験と勘を活かして携わってきただろう。プライベートコミュニケーションでも、「ほかの大学のプログラミング教育のことを知りたい」「うちではこうやっているけれどそちらはどうですか？」のような質問が多く、何年前にも同じような失敗をしている人がいたことを今更のように知るパターンは少なくなくて、思ったよりもお互いの情報交換がされていないようであるのが残念に思う。もっと情報交換ができて、一人で悩んでいるわけじゃないということを知るだけでも力になるかもしれない。これがすばらしい!! というのはなかなか出ないかもしれないけれど、少なくとも回り道はしなくて済むだろうし、少しでも多くの人と悩みを共有できるかもしれない。

そんな思いを込めて、このぺた語義をスタートさせた。ぺた語義の由来は解説の笈先生にお任せして、ぺた語義の役割についてももう少し思いを語りたい。

ものごとを正しく理解していれば少なくとも正しい判断ができる方向で考えることができる。しかし、正しく理解していなければ、正しい判断ができるはずがない。自分が困るだけだからいいと思っただけは大間違い。結果的に他人に迷惑をかける事態が生じる。思いもかけない争いになってしまう。教育は、そんな状況をつくらないために存在すると思う。だから、情報教育も、情報化社会において最低限理解しておくべきことを教育するためにがんばらねばならない。

話は飛ぶけれど、昔、さもコンピュータが人間を支配しているかのようにふるまう映画が一時流行っていた気がする。そういうこともあり得るかもしれないが、コンピュータが明示的に人間を支配してはいなくても、すでに情報機器や情報端末に振り回されている人間がなんと多いことか。情報機器が思わぬ動きをすることに恐ろしくなってしまう。世の中についていけないデジタルデバイドもそうだし、逆に、SNSのコミュニティ内でのバーチャルな世界でのコミュニケーションに疲れ果てている若者、携帯電話を使いこなしているようで、実はうまくコミュニケーションを終わらせることができていない若者……。それでいて、基本的な情報に関する知識の教育もできていないという例が少なくないことが残念だ。「コンピュータによる数値計算には誤差がつきものだ」という説明に驚く学生も多いと聞くし、ウィキリークスという単語を知らない学生も決して少なくないとか、「こういうコマンドを使えばログがとれる」と教えると、エディタにコマンドを打って「先生、実行しました」という卒研生もいるとか……。今回の震災で、メディアリテラシー、情報リテラシーの教育の必要性を再確認した方々も多いと思う。危機的ともいえるこの状況で、このぺた語義コーナーが、情報教育に携わる私たちに希望を与えてくれる、闇の中に光を当ててくれることを願って……

高岡詠子 (上智大学)